

## [011]イチキガシ林の施業上主要なる基礎的事項に関する研究

片山, 茂樹  
九州帝国大学

<https://doi.org/10.15017/14214>

---

出版情報：九州帝国大学農学部演習林報告. 11, pp.1-136, 1940-03-30. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン：  
権利関係：



## 總 說

カン材が車輛材、柄材、櫓材、羽板材等に使用せられ他樹種の追従を許さざる關係上我邦特殊材中重要なる位置を占め 國有林經營上古くより 其の生産保續が計畫されたのである。我國に於ける カシ 用材生産中其の七割は九州で其の内六割は國有林である。然かも民有林は伐採に次ぐに 伐採を以てした結果 現在大材なく我國に生産する大材の七割は九州國有林の特産物である。民有林の林相は以上の如くにして將來の生産に關しては 國有林に負ふ所が甚だ多いのである。然るに既往更新地の狀況は甚だ不成績である。現時の伐採量等に就いては 戰時下に於ける關係上記述の自由を有せざるも戰前に於てすら當局は節伐の計畫を立てた程である。(參考書 3)之れは施業案に於て 生産の保續を閉却視して居つた爲ではなく寧ろ更新地が豫期の如く成林し得ざりし点に重点がある。殊にイチキガシはカン材中最も優良な材にして造林の過半はイチキガシであり、造成すべき カシ 類の代表的のものである。然かもイチキガシは九州南部に於てのみ見る 特殊貴重材とも稱し得るのである。戰時下に於ける増伐と之れが將來の生産保續を思ふ時 イチキガシ 林の施業殊に更新の重要性が明瞭となり自ら襟を正さざるを得ざるの感がある。

昭和八年 高岡營林署管内宮崎縣 東諸縣郡山の口村大字山の口字青井岳國有林高岡事業區 23 林班い小班内に設置せる試験地はイチキガシの更新並に手入に關すを調査研究を主なる目的として居る。面積僅に 0.60 ha なるも 調査事項は稚樹の發生枯死及生長に關する各種事項に亘り 努めて詳細に施行した。尙當時木材市況の關係上穿孔蟲の被害木は蟲木と稱して甚だ安價に取引せられたる爲 穿孔蟲の被害防止に就いても 昭和八年七月同國有林 22 林班内に面積 5600 m<sup>2</sup> の試験地を設置して 蟲害に對し調査を開始した。又 九大糟屋演習林には 山床苗圃に播種を行ひて 播種の深さ、發芽の時期、期間並に發芽力の保存等に就き調査を行つた。以上三箇の試験經過に付きては 昭和十一年四月「イチキガシ 林の施業上主要なる事項に關する研究」と題する中間報告に掲載したが 試験着手後日淺くして 傾向を捉へ得た程度のもの多く又其後の經過に重要性を有して居るものが少なくなかつた。然し現在に於ては既に

滿六年を經過せし故 23 林班い小班の更新並に手入試験地も種々なる結果を示すに至り 22 林班の穿孔蟲の被害に關する試験地も一先づ調査終了の域に達し糟屋演習林内の山床苗圃に於ける播種に關する試験も大略其の目的を達したのである。以上三箇の試験地に於ける昭和八年以降の成績と觀察の結果を第一編として掲載することとした。

第二編に於ては前記常設試験地の外各地の國有林を視察し調査したる結果を取り纏めたるものでイチキガシ林の施業に關し各種の方法を比較し其の優劣を明にせんとしたのである。斯かる目的の爲に選ぶべき林分は立地關係が同一であるのみならず既往の取扱ひ方が明瞭でなければならない。現在營林署に於て試験的取扱ひを爲しつゝあるものは少數を除きては甚だ規模小さく且經過期間短かきもの多く或は伐採前の狀況等數字的に不明にて參考資料となるもの少なき故本調査に於ては曾て試験地的取扱を受け其後普通施業地に偏入され全く放置されたるもの等從來の取扱法の明瞭なるもの並に幾年前かの成林狀況を窺知し得るものを選んだものが少くない。例へば人工植栽と天然生育との比較調査、イチキガシが他樹種と混淆する場合の各種調査、手入の効果調査、疎密度及手入と成林との調査に關する林分の如きは成るべく前記の方針の元に選定したのである。

次にイチキガシを含む常緑潤葉樹天然生林の構成に關しては素よりイチキガシを中心として研究せるもので樹種別、直徑別、本數材積の外樹高別に調査した。之れは樹種頗る多くして同直徑にても樹種により其の樹高には大なる差異があり支配木被壓木の生ずる原因は樹種の陰陽の外樹高關係によりて惹き起さるゝこと多き故主要なる樹種に付直徑と樹高との關係を明かにするに努めた。

又常緑潤葉樹天然生林の構成の如きは樹種多くして複雑なる故小面積の標準地により局部的に調査せる資料を以てしては決して正當なる結果を得るものにあらずと信じ成るべく廣大なる面積を區劃して調査した。例へば高岡事業區に於ては林班 20 ろ面積 4.122 ha、及林班 20 に面積 7.620 ha 合計 11.742 ha を調査した。尙林地の狀況により更新關係異なる故南九州特有の地形に鑑み林地の區分を行つた。従つてイチキガシを主とする南九州地方の常緑潤葉樹天然生林の構成は略々捉へ得た

積りである。

尙従來はイチキガシの更新を研究するに努めて林冠層の疎密に重きを置いた。之れは勿論重要な点なるも既往に於ける廣大なる天然更新地、人工植栽地の不成績は斯かる林冠の誤まれる疎密度に原因するよりも手入不足の爲遂に不成績に陥れるものと歸納せらるゝ点多く將來は手入の目的を考へ適當に施行し、親切に撫育せば決して成林は困難ならずと信ずるものである。

第三編に於ては第一編に於ける常設試験地の成績並に第二編に於ける各地國有林の調査結果に對し總括を記し併せて森林作業への應用を掲げた。

前調査書に於て記載し、本稿に於て全く言及せざりしものは次の如きものである。

1. イチキガシ材の利用上より見たる種類に關する研究—之れは材の利用上よりイチキガシを分類し、各種類に於ける材の構造、等をも記したものである。
2. 九州に於けるイチキガシの現在分布と地質—之れは現在の分布狀況を圖示し地質との關係をも掲げたものである。

注意 本稿に於て「前調査書」と稱するは昭和十一年四月 熊本營林局發行 拙著「イチキガシ林の施業上主要なる事項に關する研究」の略稱である。